

# 伊藤存

Zon Ito 1971- 日本

刺繍によって描くようになったのは、あえてそのゆっくりとした時間とプロセスを大切にされたから 伊藤存

伊藤存は、刺繍で描く絵画作品をはじめとして、アニメーション、ドローイング、彫刻作品を制作。

「側線ベルト」(2003)のタイトルにある「側線」とは、魚などの体に線状に並んでいる感覚器官のこと。左上にウサギの耳が、右下に脚が見える。ウサギの背中に相当するあたりには、山の稜線があらわれ、お腹のあたりには湖や木々がある。複数のモチーフは瞬間にすべてが目に映ることはなく、風景の中で浮かんでは消え、次第に混ざりあっていく。「浜と手と脳」(2017)は、2017年リボンアート・フェスティバルで展示された作品。展示場所となった浪田浜で、土を掘って出来てきた粘土を用いた絵、そこから発展して粘土を焼くかまど自体をキャンバスにした煙の出る作品を制作したほか、普段制作している映像や刺繍の作品を持ち込んだ。この刺繍作品もそのひとつ。布の染みが浜での展示の跡を物語る。